

ヤコブ

聖徒たちと歩む聖書 ~18~  
ヤコブ その1

「主に委ねて歩む道へ」

創世記25,27~28章 ヤコブ誕生から旅立ちまで

## 【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
  - I. エサウとヤコブの誕生
  - II. 長子権をめぐる二人の態度
  - III. 長子権の相続
  - IV. ヤコブの旅立ち
  - V. まとめと適用
- ヤコブの過ちから学ぼう



# 0. ふりかえり



## 【創世記11章までに明らかになったこと】

①人類は、たった一つの約束も守れなかった。



最初の罪・破られたエデン契約

②人類は、**良心**によって、世界を正しく治めることはできなかった。



大洪水の裁き

③人類は、**組織**によっても、世界を正しく治められなかった。



バベルの塔事件・散らされた人類

人類の良心も、組織も、世界を正しく治められなかった。

人間は、自分の努力で、神との平和を作り出すことはできない!!

では、いったい、どうしたら？ 人類の希望はどこに？

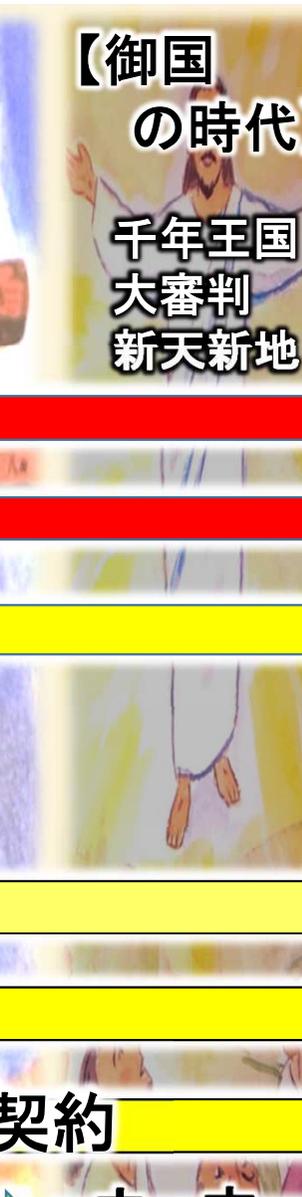
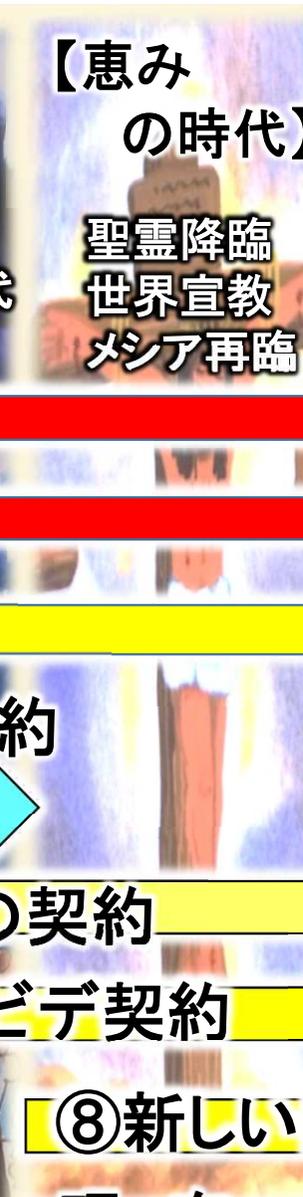
神は、名もなき一人の人、アブラハムを選んだ。

命令に従い、行き先も分からないまま旅だったアブラハム。

神は、アブラハムを祝福され、土地の授与と子孫の繁栄を告げ、その子孫から、全人類を救いに導くメシアが誕生することを約束された。

アブラハムは、神の約束を信じて、救われた。信仰によって義とされる。それが、聖書の救いの大原則!!





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

## 【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



## 【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

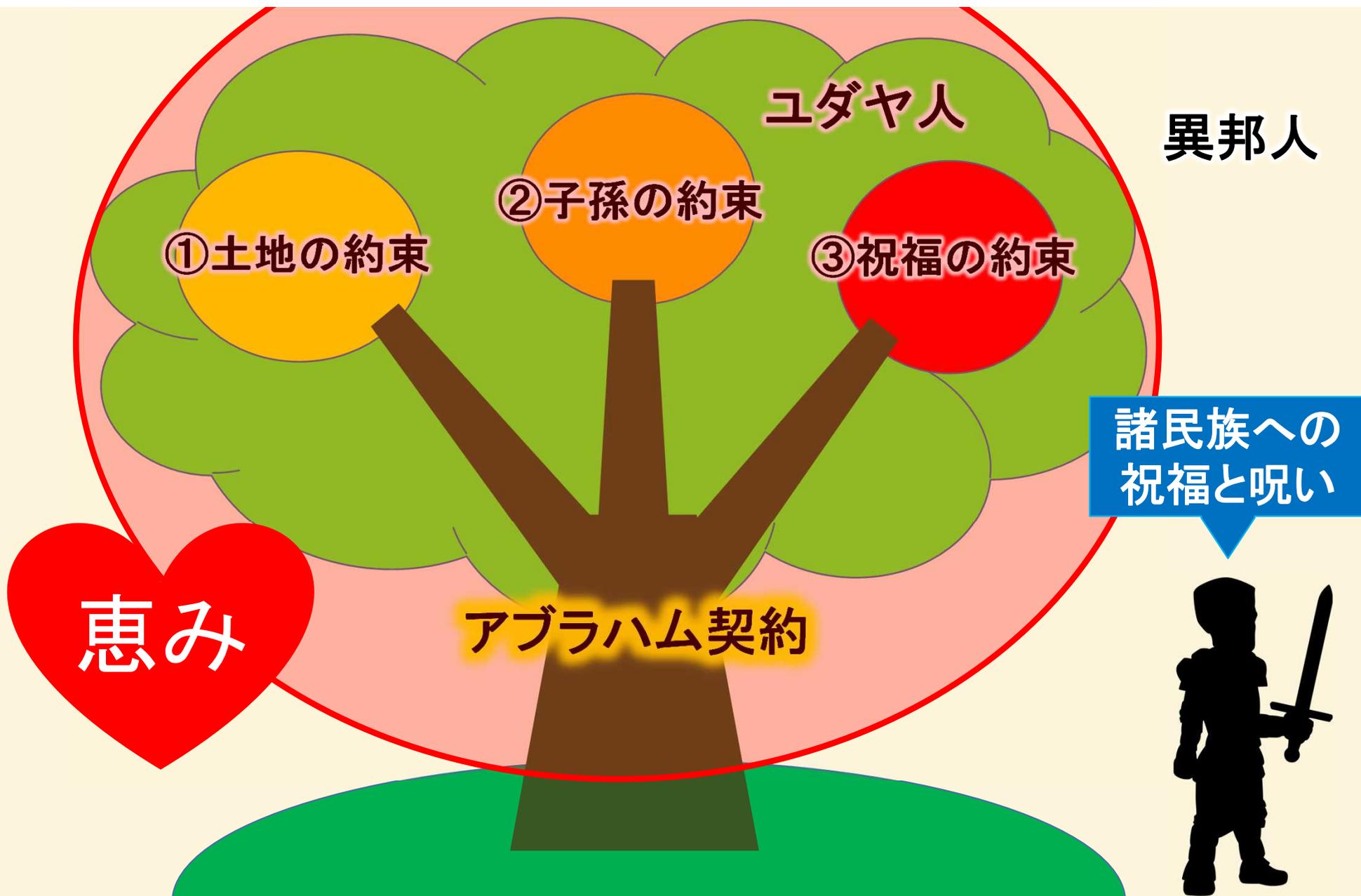
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

例)エジプト、ゲラルでの出来事。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】



## 【トルドット・時代区分】

①2:4~4:26	「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」
②5:1~6:8	「これはアダムの <u>歴史の記録</u> である」
③6:9~	「これはノアの <u>歴史</u> である」
④10:1~	「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」
⑤11:10~	「これはセムの <u>歴史</u> である」
⑥11:27~	「これはテラの <u>歴史</u> である」 <b>アブラハム編</b>
⑦25:12~18	「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」
⑧25:19~26	「これはイサクの <u>歴史</u> である」 <b>ヤコブ編</b>

# I. エサウとヤコブの誕生

創25:19～26

ヤコブの

格闘人生の始まり



## 【リベカの懐妊と苦悩と祈り】 創15:19～24

- 40歳でリベカと結婚したイサクだが、子はできず。
- 60歳にして、ようやくリベカが身ごもったが、胎内で子どもたちが押し合うので身が持たない。
- 一体どうなるのか。神の御心を求め、荒野で一人祈るリベカに、主は語りかけられた。

25:23 すると【主】は彼女に仰せられた。

「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える。」

**主は、最初から選ばれていた!!  
神の約束が先にある!!**



## 【エサウとヤコブの誕生】

:26 そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それでその子をヤコブと名づけた。  
イサクは彼らを生んだとき、六十歳であった。

- 兄は、エサウ ...“毛深い”
- 弟は、ヤコブ ...“かかとをつかむ者”  
...“押しのける者”

★ヤコブの人生はまず、  
兄エサウとの格闘から始まった。



## Ⅱ. 長子権をめぐる 二人の態度

創25:27～34

「豆スープ事件」



## 【エサウとヤコブの性質】 創25:27

25:27 この子どもたちが成長したとき、エサウは巧みな猟師、野の人\*となり、ヤコブは穏やかな人\*となり、天幕に住んでいた。

- エサウは、神と家族に \* 反逆する者。
- ヤコブは、神の目に \* 正しい人 (ノアと同じ)。
- あるとき、ヤコブが、豆スープを煮ていると、エサウが腹を空かせて猟から帰ってきた。エサウは、ヤコブに、それを食べせろと迫った。



## 【長子権を売り渡したエサウ】 創25:32~34

- 急かすエサウに、ヤコブは、長子権を求めた。
- エサウは誓って、大事な長子権を豆スープ一杯でヤコブに売り渡した。

- この出来事のポイントが、34節。

「こうしてエサウは長子の権利を軽蔑した。」

- その赤いのを食べさせろと行ったエサウには、エドム(赤い)とあだ名が。⇒エドム人の由来。(※エドムの人々の末裔が、あのヘロデ大王)

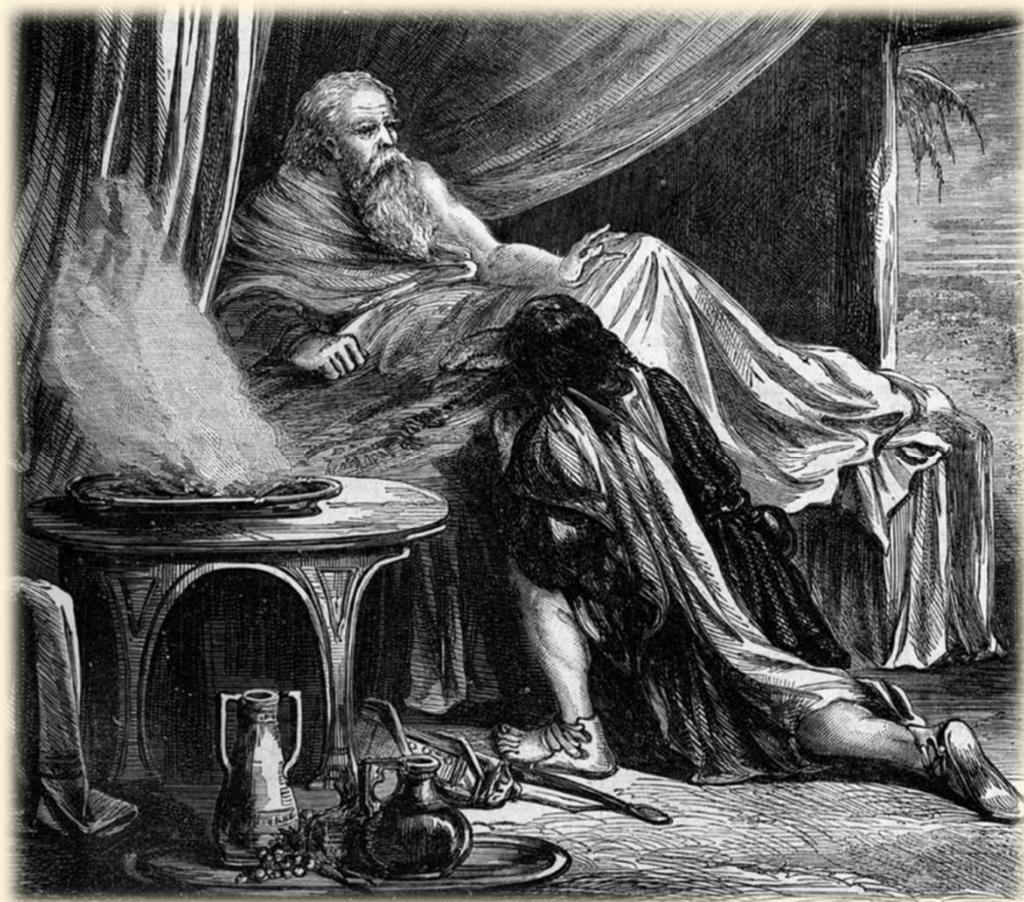
ここでの最大の問題は、神の権威を軽んじるエサウの俗悪さ



# Ⅲ. 長子権の相続

創27章

ヤコブの  
格闘人生の始まり



## 【ヤコブの意思】 創26:34～36,27:1～4

- エサウは、40歳でヘテ人の二人の妻をもった。  
⇒エサウの反抗、ここに極まれり!!
- 年老いたイサクは、長子権の相続を実行に!!
  - ★ 神が選んだのはヤコブだが、
  - ★ イサクが選んだのは、エサウ!!  
⇒エサウの仕留める鹿肉が好物だった!!
- イサクの弱みは、グルメすぎたこと？  
貪欲において、エサウと結びついてしまった？



## 【リベカの計略】 創27:1～17

- イサクとヤコブの話聞いたリベカは、一計を案じる。エサウが猟に出ている間に、夫の好きな山羊の料理を作り、イサクには、子山羊の毛皮を腕と首に巻き付けて、エサウになりすませた。

(※おまけ:山羊の皮でごまかせる?)

- リベカの犯した罪とは？

「わが子よ。あなたののろいは私が受けます。」

- 神は、最初から、ヤコブを選び、リベカにも伝えた。

- リベカの罪とは、神に委ねきれず、夫を欺いたこと。

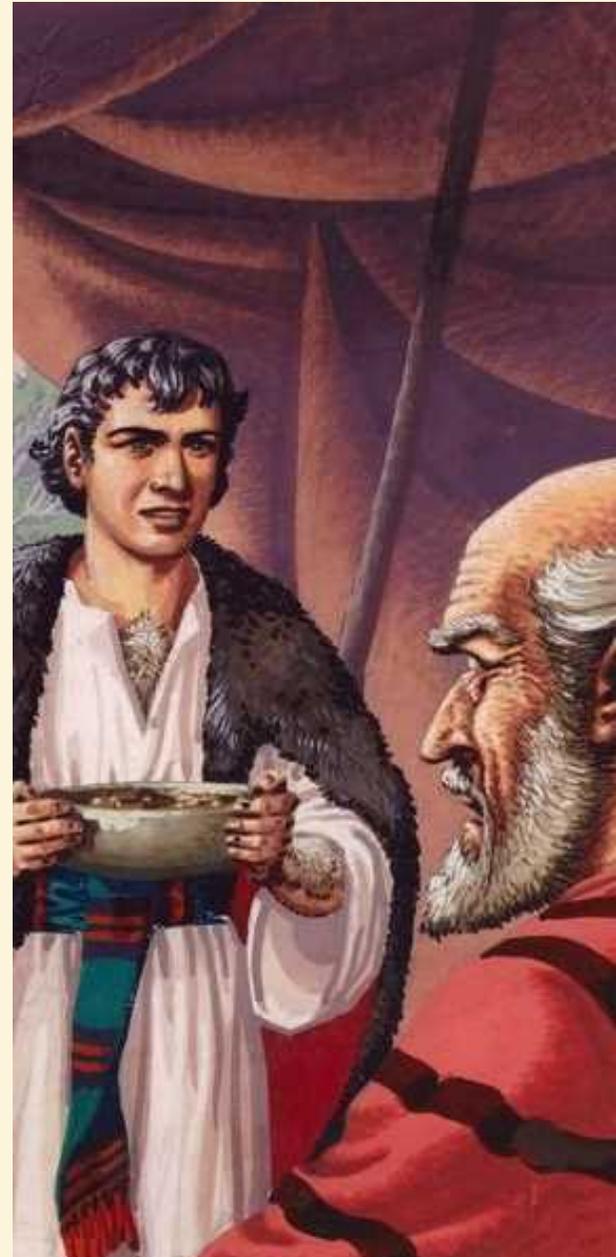
⇒神の時を信頼して待つことができず、

人間的な方法で、実現させようとした!!



## 【ヤコブの罪】 創 27:18～20

ヤコブは父のところに行き、「お父さん」と言った。イサクは、「おお、わが子よ。だれだね、おまえは」と尋ねた。ヤコブは父に、「私は長男のエサウです。私はあなたが言われたとおりにしました。さあ、起きてすわり、私の獲物を召し上がってください。ご自身で私を祝福してくださるために」と答えた。イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね。わが子よ。」すると彼は答えた。「あなたの神、【主】が私のために、そうさせてくださったのです。\*」



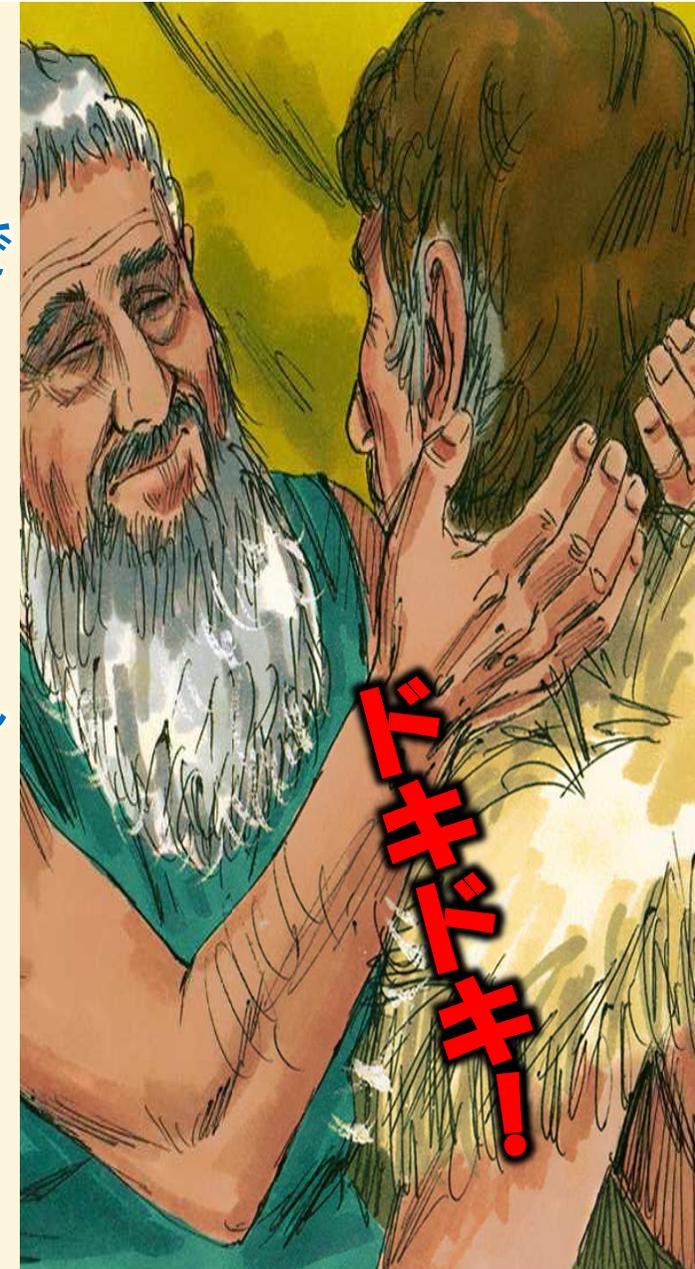
■ ①父イサクを欺き、②神を偽った、ヤコブの罪

## 【嘘を重ねるヤコブ】 創27:21～24

そこでイサクはヤコブに言った。「近くに寄ってくれ。わが子よ。私は、おまえがほんとうにわが子エサウであるかどうか、おまえにさわってみたい。」

ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」 ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。それでイサクは彼を祝福しようとしたが、「ほんとうにおまえは、わが子エサウだね」と尋ねた。すると答えた。「私です。\*」

\* ヤコブの三度目の嘘。

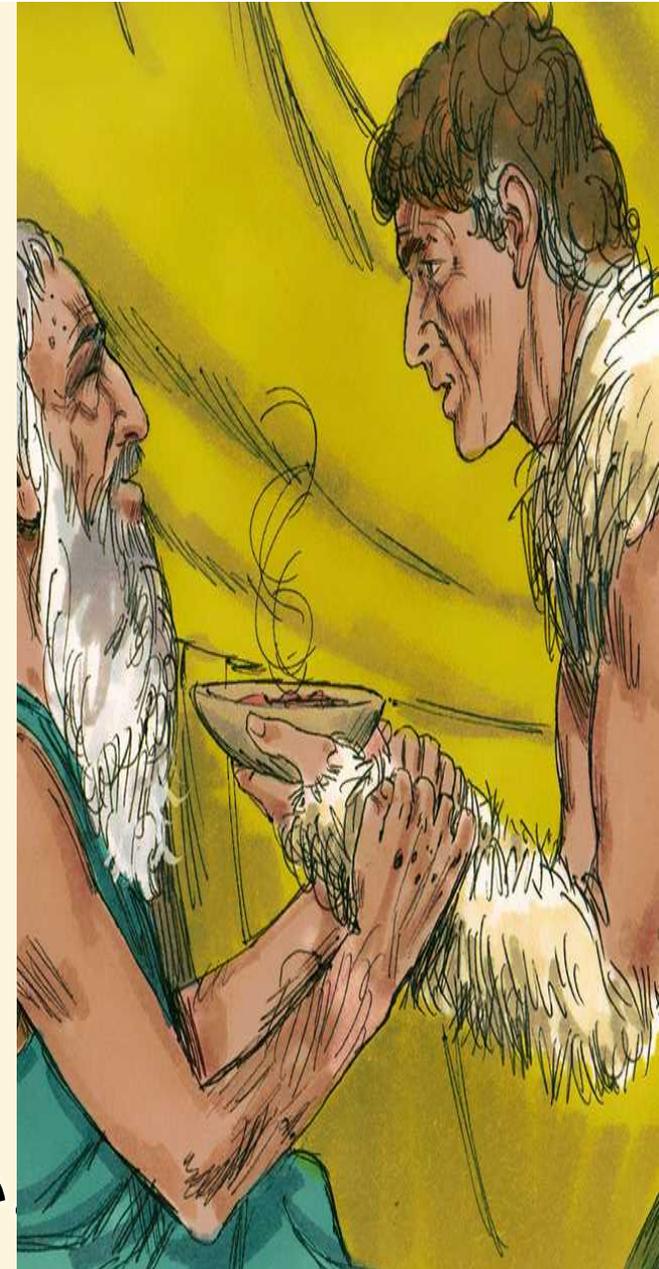


## 【だまされたイサク】 創27:25～27

そこでイサクは言った。「私のところに持って来なさい。私自身がおまえを祝福するために、わが子の獲物を食べたいものだ。」そこでヤコブが持って来ると、イサクはそれを食べた。またぶどう酒を持って来ると、それも飲んだ。

父イサクはヤコブに、「わが子よ。近寄って私に口づけしてくれ」と言ったので、ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクは、ヤコブの着物のかおりをかぎ、彼を祝福して言った。「ああ、わが子のかおり。【主】が祝福された野のかおりのようだ。」

- すっかりヤコブに だまされてしまったイサク。  
神に背いている状態では、靈的洞察力は働きようがない



## 【創27:28～29】

「神がおまえに天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒をお与えになるように。\*1

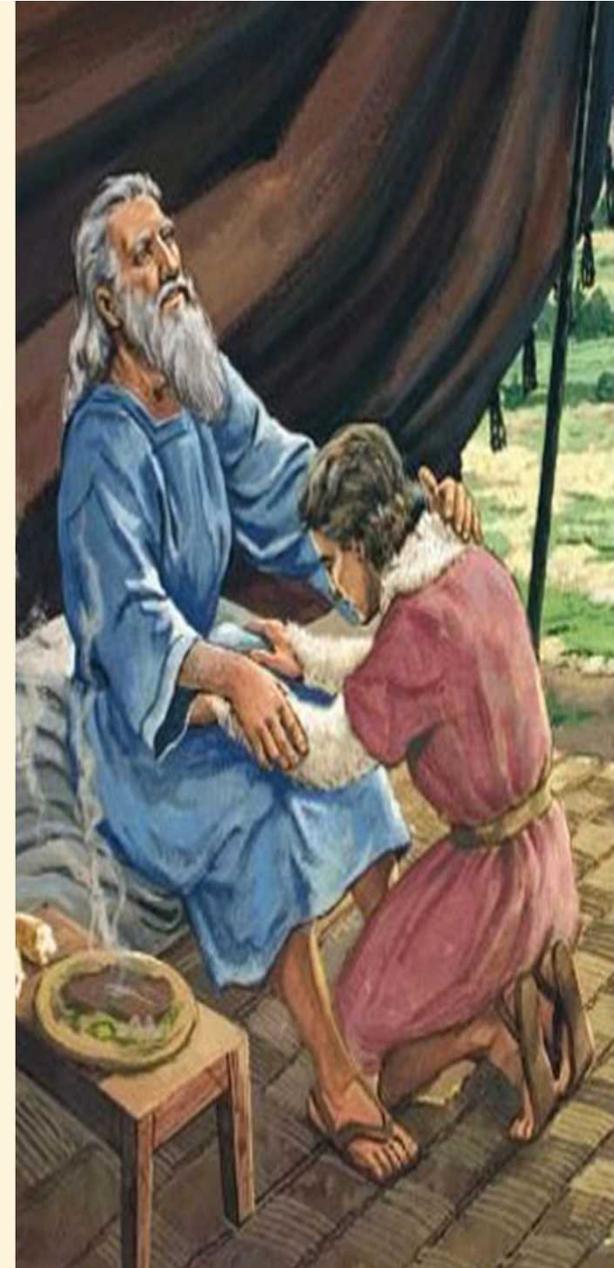
国々の民はおまえに仕え、国民はおまえを伏し拝み、おまえは兄弟たちの主となり、おまえの母の子らがおまえを伏し拝むように。\*2 おまえをのろう者はのろわれ、おまえを祝福する者は祝福されるように。\*3」

\*1) 大地の実りの祝福

\*2) 国々の上に立ち、兄弟たちの主となる。

⇒長子権の継承。アブラハムへの祝福の継承。

\*3) アブラハム契約の付帯条項。神の守りの祝福。



## 【イサクは躊躇した?!】 創27:29前半

「国々の民はおまえに仕え、国民はおまえを伏し拝み、おまえは兄弟たちの主となり、おまえの母の子らがおまえを伏し拝むように。」

- なんとも微妙な表現。付帯契約の方は明確なのに!!  
⇒ アブラハム契約の継承だとは言えなかった？
- 契約の継承は、神ご自身の意思と語りかけによる、  
ということは、イサクは理解していた？
- イサクは、エサウに長子権は譲っても、  
エサウがアブラハム契約を受け継ぐとは、  
思っていなかった？  
⇒ アブラハム契約の正式な継承は、次章で!!



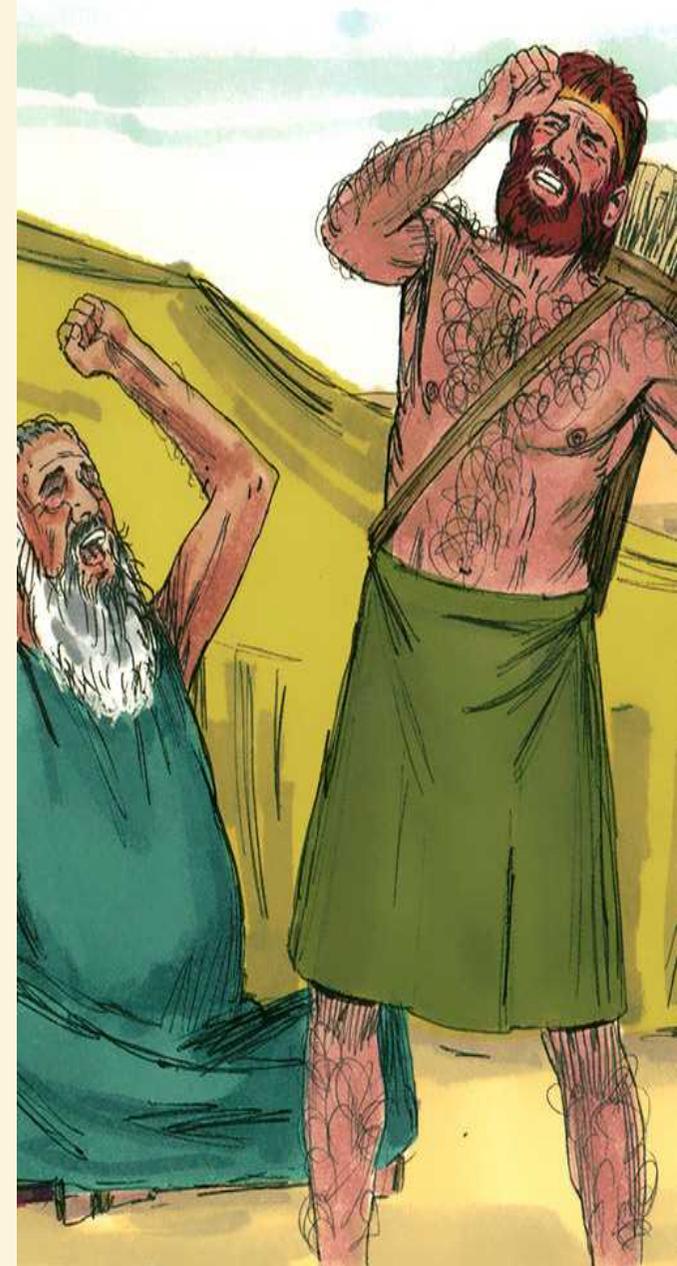
## 【嘆くエサウ】 創27:30～40

- エサウが猟から帰ってきて、イサクは悟った。
- エサウは、「二度も足を引っ張った(アーカブ)」とヤコブをなじったが、最大の責任は彼自身に。

### ■ エサウへのヤコブの宣言(創27:39～40)

「見よ。おまえの住む所では、地は肥えることなく、上から天の露もない。おまえはおのれの剣によって生き、おまえの弟に仕えることになる。おまえが奮い立つならば、おまえは彼のくびきを自分の首から解き捨てるであろう。」

⇒ 神の祝福を失ったエサウは、血縁すら絶って、神に逆らい、おのれの力で生きていくことに!!





## IV. ヤコブの旅立ち

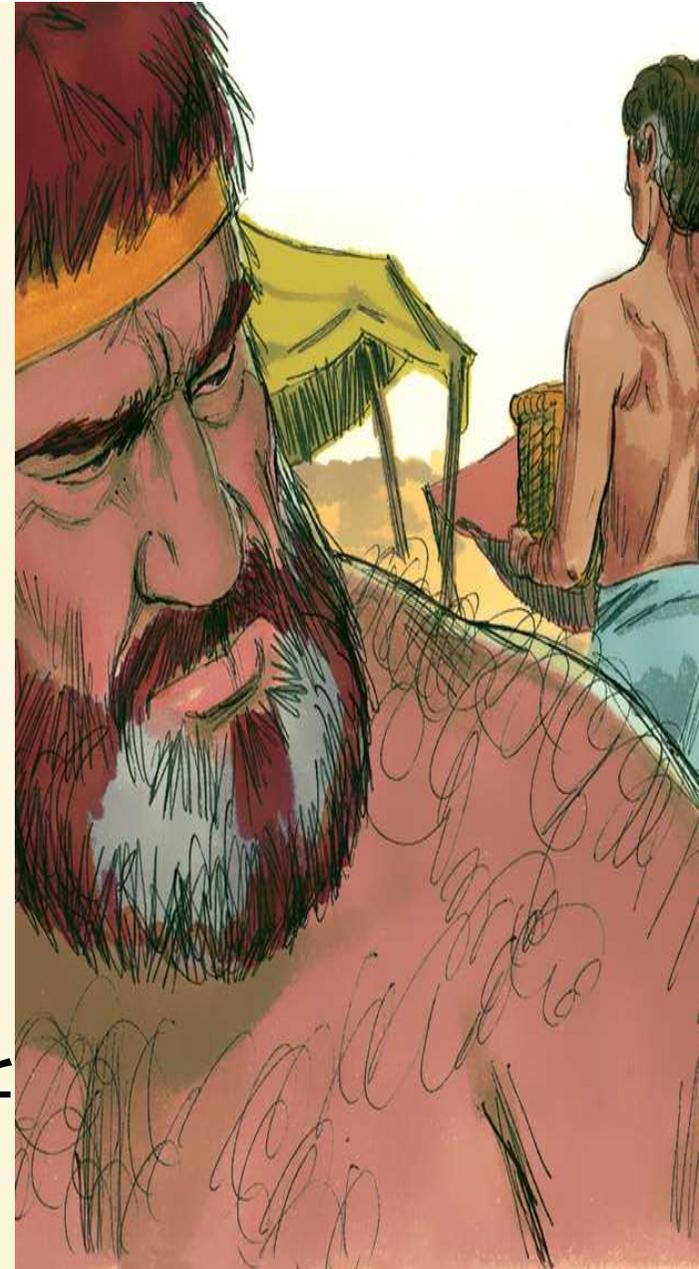
創27:41～28:5

～それぞれの罪の刈り取り～

## 【エサウの憎悪とリベカの計らい】 創27:41～44

エサウは、父がヤコブを祝福したあの祝福のことでヤコブを恨んだ。それでエサウは心の中で言った。「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」 兄エサウの言ったことがリベカに伝えられると...

- エサウから、隠しきれない憤怒が発していた?!
- エサウがヤコブを殺せば、死刑に!!(ノア契約)
- リベカは、700km離れた故郷ハランの叔父ラバンの所に、嫁探しを名目に、ヤコブを旅立たせることを決意した。



## 【リベカの提案とイサクの命令】

■「エサウのようにヤコブが異邦人の妻をめとるなど、耐えられない」リベカの提案を聞き入れたイサクは、嫁探しのために、ヤコブをハランに送ることにした。

## 【アブラハム契約に基づくイサクの祝福】 創28:3～4

「全能の神がおまえを祝福し、多くの子どもを与え、おまえをふえさせてくださるように。そして、おまえが多くの民のつどいとなるように。神はアブラハムの祝福を、おまえと、おまえとともにいるおまえの子孫とに授け、神がアブラハムに下さった地、おまえがいま寄留しているこの地を継がせてくださるように。」

■ 子孫の約束、祝福の約束、土地の約束



## 【リベカとヤコブの別れ】 創 28:5

こうしてイサクはヤコブを送り出した。彼はパダン・アラムへ行って、ヤコブとエサウの母リベカの兄、アラム人ベトエルの子ラバンのところに行った。

■これが母リベカとヤコブの今生の別れに！

「呪いは、わたしが引き受けます」

⇒自らの言動の報いを受けたリベカ

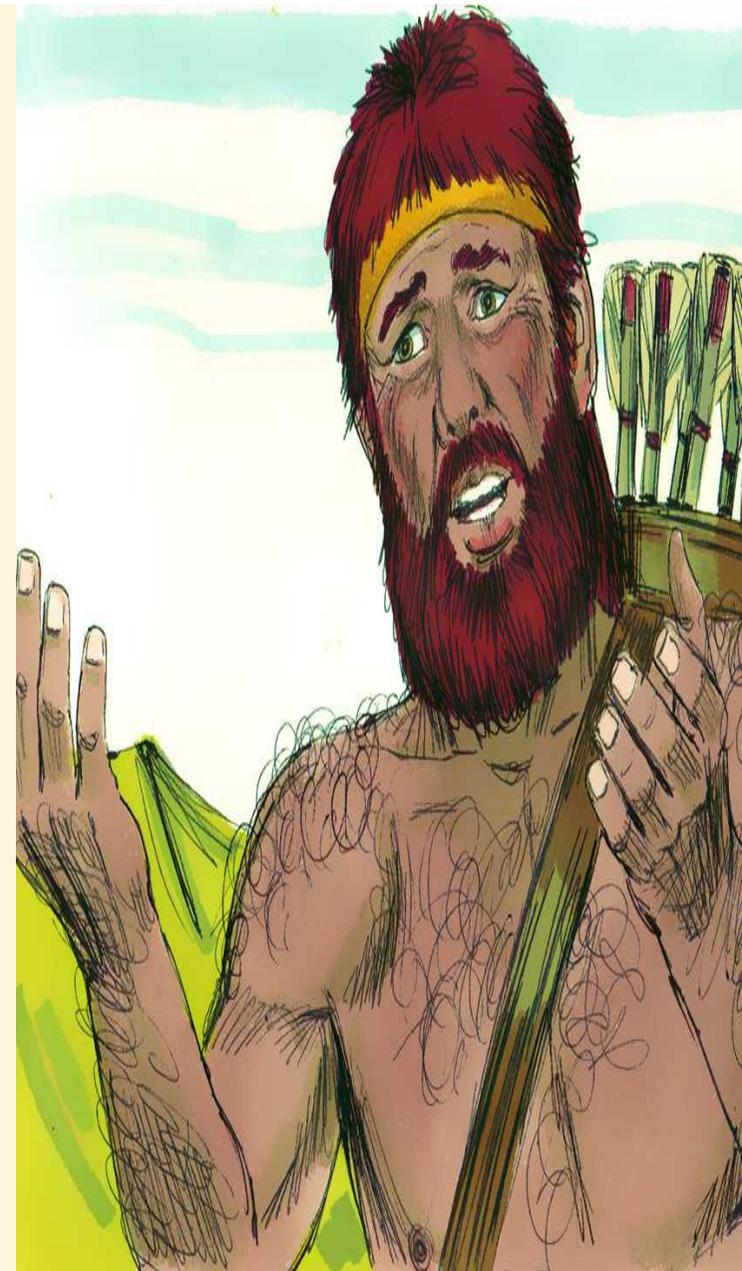


## 【エサウが重ねた神への反逆】 創28:6～9

- イサクがヤコブを嫁探しにハランに送ったこと。  
エサウのカナン人の二人の妻を嫌っていること。  
それを知ったエサウは、とんでもない行動に!!

「28:9 それでエサウはイシュマエルのところに行き、  
今ある妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻としてめとった。」

- 血族ではあるが、あのイシュマエルの娘!!  
神の約束の子イサクをいじめたイシュマエル!!  
父への当てつけ？ 神への罪を重ねたエサウ!!





**IV. まとめと適用**  
**ヤコブの過ちから学ぼう**

ネゲブ山地

## 【それぞれの過ち】

- エサウは、長子権を、神の権威を軽んじた。
- リベカは、自分の企てで、神の計画を実現しようとした。
- ヤコブもまた、自分で、神の計画を進め、神への信頼に欠けた。
- イサクは、神の計画よりも、自分の欲望を優先させてしまった。

■ 最も責任が重いのは？

アブラハム契約の継承者であるイサク

## 【旅立ちまでの、ヤコブの生涯から学ぶこと】

- 神が、ヤコブを最初から選ばれていた。
- イサクもリベカも、エサウもヤコブも、それを知らされていた。
- エサウは反抗し、イサクは欲望に負け、  
リベカとヤコブは、主を信頼しきれず、自力に頼った。

- 私たちに、求められるのは、  
神のご計画を正しく知ること。

そして、神のご計画を信頼し、従い、歩むこと。

- 委ねるべきは主に委ね、神の時を待とう。

- 委ねるべきことと、自分でなすべきこと、

神の御意思と、自分の願望、

その二つを、御言葉によって、切り分けていこう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主のご計画(けいかく)をよく学(学び)び、信頼(しんらい)し、  
主のご意思(いし)に従(したが)い、遣(つか)わされていく、  
わたしたち、一人一人としてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」